

中心市街地の活性化に向けて

駅前東館跡地の活用方向性

今月号では、市議会に対して説明した、中心市街地の現状を踏まえ、駅前東館跡地の活用方向性について紹介いたします。

中心市街地の現状

本市の中心市街地は、空き地や空き店舗の増加、ペアシティ三原東館の閉鎖など、空洞化が進んでいます。駅前東館跡地が、この中心市街地の核として、にぎわいや市内外の交流を創出するなど、さまざまな機能を発揮することができれば、市全体の活性化にもつながると考えています。

公共施設との複合化で集客やにぎわいを創出

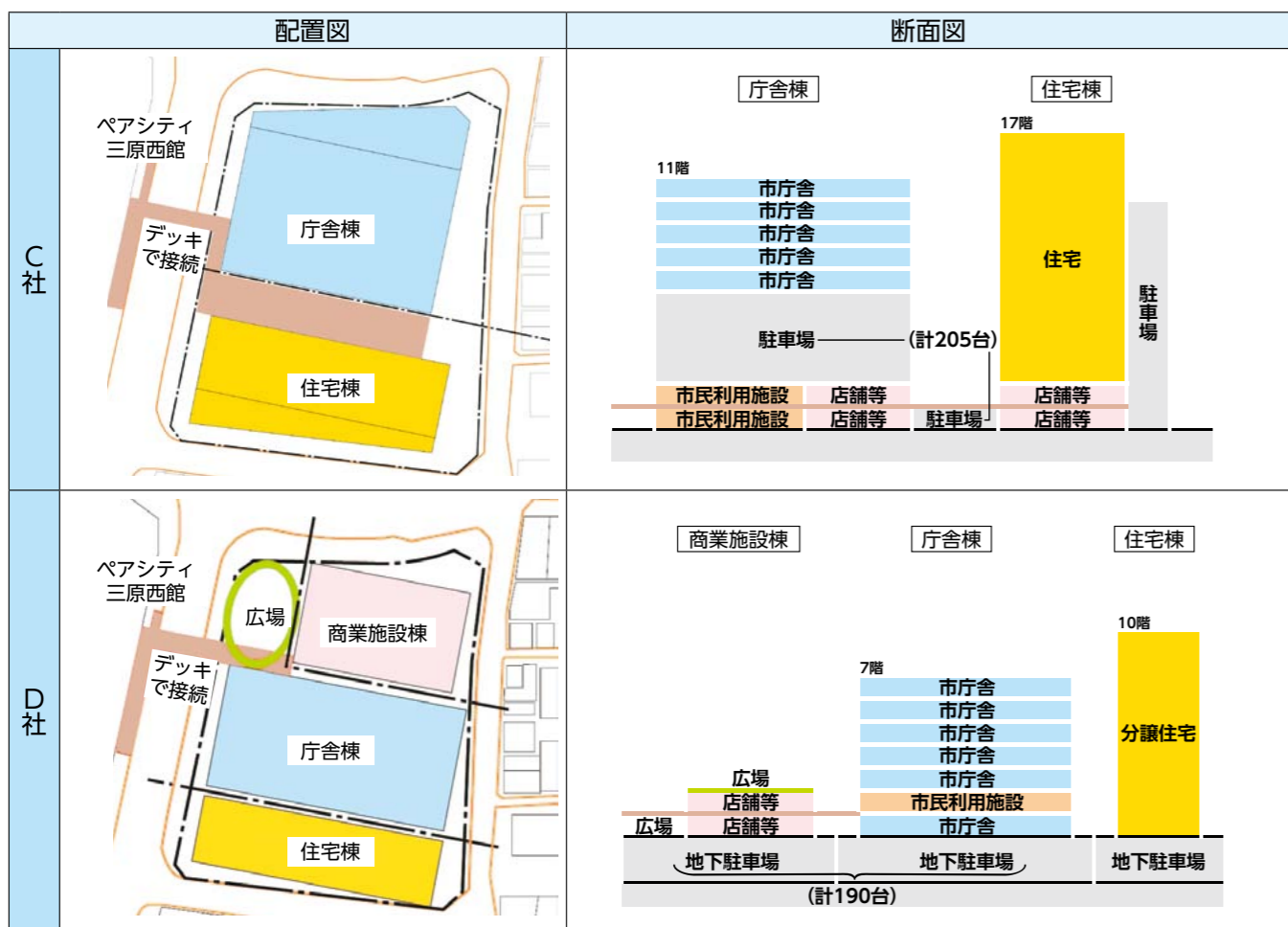
今年度実施した、商業開発可能性の調査によると、駅前東館跡地は、「民間単独での開発は困難」という結果が出ています。

一方、開発事業者への聞き取りでは、「公共施設と複合して開発することは、集客において相乗効果が期待できるなど、

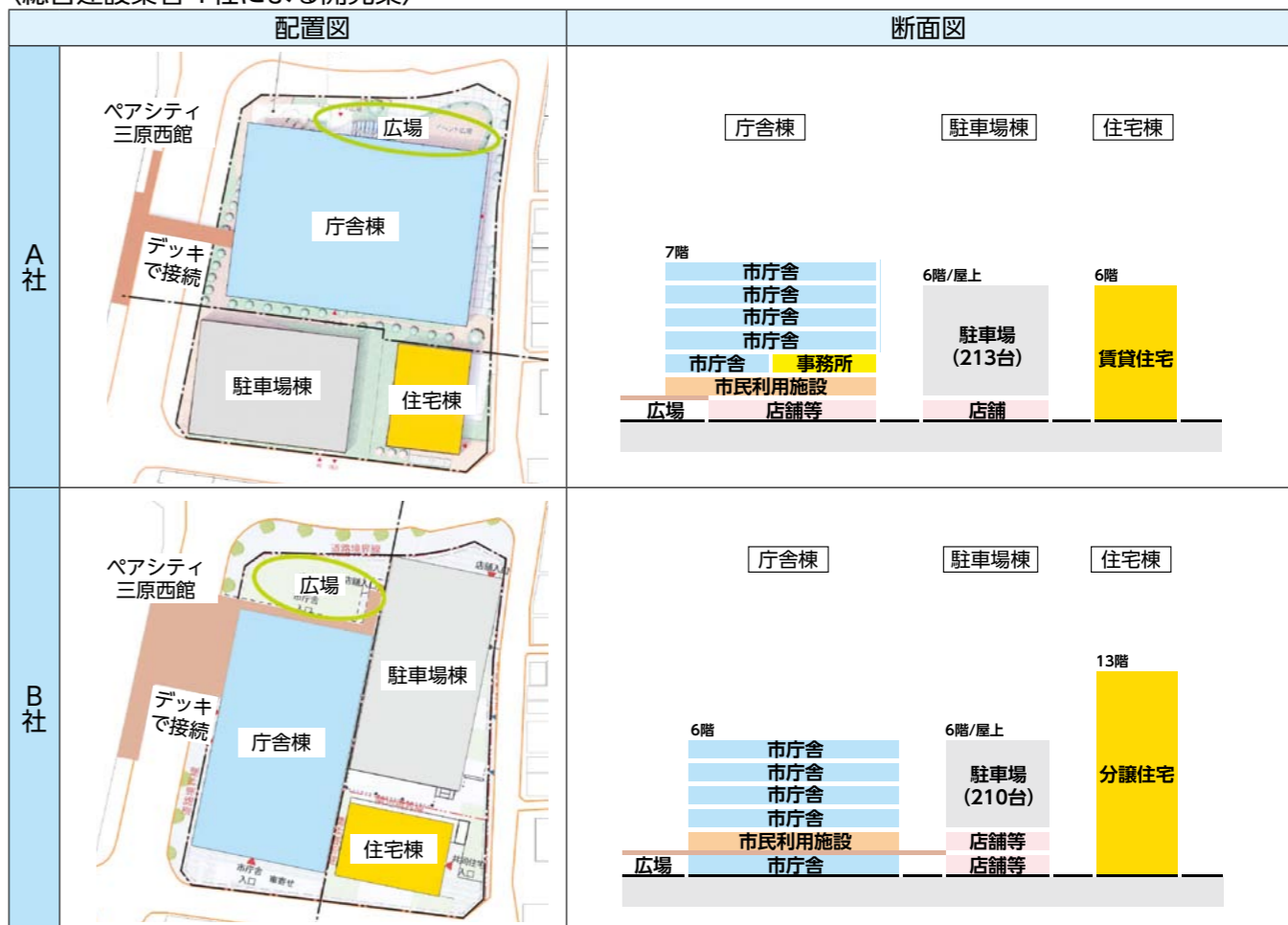
民間側にも効果があり、開発の実現性が高まる」という結果になっています。こうしたことから、駅前東館跡地に市役所と民間施設の複合施設を整備することで、集客やにぎわい、交流などを創出するとともに、西館との一体的な活用を行い、安定的で継続した中心市街地の活性化に結びつけたいと考えています。

具体的な開発案

6月29日、市議会に、駅前東館跡地の具体的な開発案の説明を行いました。次に示すものは、市が、総合建設業者4社に作成を依頼した企画提案です。出された提案は、いずれも業者独自の調査に基づく、実現の見込みがあるものです。なお、整備にあたっては、庁舎は市が建設・管理し、民間施設は民間が建設・管理することを前提としています。



〈総合建設業者4社による開発案〉



企画提案のまとめ

いずれの提案も、市庁舎と市民の皆さんが利用できる施設、民間施設などの複合化によって、活性化をめざそうとするものです。その内容をまとめると、次のようになります。

(1) 市民利用施設として

提案があったもの
図書館機能、多目的ホール、歴史コナリ、子育て支援スペースなど

(2) 民間施設として提案があったもの

商業施設
規模 合計で、おおむね2千〜3千平方メートル
配置 建物の低層部(1〜2階)
・実現の見込みがある業種・業態
▼飲食・レストラン、軽食(カフェ)など
▼物販・衣料品、産直販売など
▼サービス・金融機関、医療機関、フィットネス施設など

住宅

マンション居住の需要があることから、約50〜100戸の住宅棟を配置する提案がありました。

(3) 駐車場

来庁者用と民間施設来客用を一体的に整備する提案がありました。台数は、200台前後で、形式は自走式となっています。

今後について

今後は、これらの提案を基に、市議会において、市が考えている計画の是非が審議されます。

説明会を開催しています！

今月は、久井・大和地域で説明会を開催します。ぜひ参加してください。

とき	ところ
3日(水)	久井保健福祉センター
5日(金)	
19時~20時30分	大和支所

問い合わせ先 政策企画課 (☎0848676009 ☎0848647101)